

主 題：霊的リーダーのあるべき姿：執事とその資格②

聖書箇所：テモテへの手紙第一 3章8-13節

テーマ：聖書の教えている霊的リーダーとはどのような存在か

今週も続けて皆さんと見ていきたいのはIテモテ3章のみことばです。聖書お持ちの方はどうぞお開きください。前回から私たちは教会の霊的リーダー、特に教会に仕える執事について8節から考え始めました。先週も触れましたが、パウロは執事に関して8-13節のところで説明をしてくれていましたので、きょうは8-10節をそして来週は残りの11-13節を二回に分けて学んでいきたいと思えます。きょうの内容に入っていく前に、まず前回に学んだことを少し思い返してみてください。先週私たちは、執事と呼ばれる存在が人々の抱えている必要を満たそうと仕える人物であることを見ました。教会にはさまざまな弱さや貧しさや助けを必要としている人たちが数多く集まっています。その中にあって長老は特にみことばの奉仕と祈りに励むことによって人々の霊的な面のケアをし、そして執事は長老の優先されるべき働きが妨げられないように助け支えながら人々の物質的な面のケアをしようと仕えるのです。前回も言いましたが、これは別に長老、執事のどちらかが優れていて、どちらかが劣っているという話をしていわけではありません。どちらにも教会にあって、神様から与えられた大切な役割、重要な責任があって、そのことにそれぞれが忠実であることが求められていたのです。またそれに加えて、執事は人々の前で仕える者としての模範を示す存在でもありました。みことばを見れば、私たちがみなキリストに倣って互いに仕え合っていくことを求めています。最後の晩餐の箇所を覚えておられるでしょうが、イエス様ご自分の弟子たちの足を洗った後でこのように言われていました。「それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いの足を洗い合うべきです。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。」とヨハネ13：14-15に記されておりました。ここで改めて覚えたいことは、イエス様は弟子たちの足を洗われましたが、その弟子たちに対して、わたしの足も同じように洗いなさい、とは言われていなかったということです。言い換えれば、イエス様は自分がしたことの見返りを求めようとはしておられません。むしろ、自分自身を喜んでへりくだらせ犠牲をもって弟子たちに仕える、そのような模範をここで残されていたのです。そしてこのような模範に倣って歩んでいくことが、今の私たちにも求められておりました。

皆さんどうでしょう？正直になれば、私たちはときに自分を犠牲にしてへりくだって仕えるということに難しさを覚えることがあります。また、もっと言えば、この世の人々も自己犠牲や謙遜というものが非常に困難なものであるということをよくわかっています。興味深い調査があって、その調査というのは20代から30代の会社員の人が離職する率、離職する理由を調査したのがあります。ランキング形式でこんなふうに記されておりました。会社員の離職率の理由、トップ3は何だと思えます？3位は上司との関係でした。2位は給料などの待遇でした。そして1位は労働時間や労働環境でした。つまりこの結果を簡潔にまとめるなら、多くの人々は自分のしたことに対する見返りが割に合わなかったり、自分のプライベートが奪われるといった労働時間が長かったりすれば、その仕事に不満を覚えるということです。生まれながらに人は自分自身をへりくだらせてすべてを捧げることを自ら好んで求めたりはしないのです。しかし教会のリーダーである執事というのは、まさにそのような者として歩もうとする人物でした。執事は自分を犠牲にして、ほかの人に喜んで仕えることが神様の前に喜ばれるものであるということを知っているからこそ、人々の前でその模範を示して歩もうとするのです。だから同じよう

に仕える者として歩いていくことを求められている私たちひとりひとりにとって、今から見る執事の姿というのはそれぞれが目指していくべきその目標になります。私たちが仕えていくものとするときにどのようなものとして仕えるものとして変わっていいのか 後はそれをこの3章の8節から13節のところで見取ることができますこれから執事の資格について具体的に考えていきますけれども何かそれらの資格を自分自身に照らし合わせながら自分自身の歩みというものをよく吟味してみてくださいではこれらのことを踏まえた上で今日の内容実際に学んでいきたいと思っておりますのでいつも通りまずみことばをお読みしたいと思いますもう一度全体を見るために8節から13節のところを皆さん見てください8節から13節です 人たちがまたこういう人でなければなりません新田で二枚舌を使わず大酒のみでなく不正な利用もサボらず気を色を身をもって信仰の奥義を保っている人です後審査を受けさせなさいそして非難される点があれば執事の色に吐かせなさい藤井執事も意見があり悪口を言わず自分を制し全てに忠実な人でなければなりませんそれは1人の妻の夫であって子どもと家庭をよく納める人でなければなりませんというのは執事の勤めを立派に果たして人は良い地方を示またキリストイエスを信じる信仰についてすごい確信を持つことができるからです まず1つ目の筋の資格として挙げられていたものそれは禁煙であることでした人間であることをこのように仮説を見れば始まっていました下の子もまたこういう人でなければなりません。元で頭を最初に注目してほしいことそれはここが出しもまたということばで始まっているということですし地もまたパウロはこの何々もバカということばを用いることによってこれまで自分が語ってきたものとこれから増えていくものが全く異なるものではなく似かよったもので 表そうとしていましたということかかって言ってみてくださいパウロは以前見た1節から7節のところ監督の職につくものは必ず資格を満たした人でなければならぬということとそのことを訴えてましたですね店角ところ皆さんもう一度見ていただくと隣接のところも最初に変わりましたですから監督はこういう人でなければなりませんパウロは監督の働きというものがとても素晴らしいものであることと同じときにそれが協会にとって非常に大きな影響与えるものであるからこそだからこそ誰もがその働き つけるとは言っていないでしたそこには明白な霊的基準というものが設けられていたのです監督はこういう人でなければなりませんそして太郎は俺とおんなじようにここでも執事もまたこういう人でなければなりませんというふうに求めていたのですつまり皆さん何が言いたいのか、ポイントはこれから見ていく執事の資格一つ一つの長老のときとおんなじように身に付けていてもいなくてもどちらでも良いものではなく必ず満たしていなければならないんだということです近くて良いものは出子が いかんしていなければならないものになりますではそのことを踏まえた上でまず最初の頃金源であるということですけどもこれはどういうことを意味するかを考えてみましょうこの人権であるというふうに訳されていることばですけれどもこれにはもともと尊敬や命より値するとか立派なという意味が含まれています尊敬や名誉に値するとか立派なという意味ですつまり賃金であるというのはその不純物の街道であったり振る舞いというものが周りの人から どっちなるようなものであるということです道徳の面や霊的な面においてもその歩みが優れているからこそその人物を目にした人々がこの人のように生きていきたいそう望むようなそんな生き方をしている人物であることがここで求められていましたもちろんこれが単なる外側の振る舞いについてだけでなくその人の内側の話をしているんだということその事はもういうまでもありませんパウロはここで外がさえ正しく振る舞って人から賞賛されるようであれば 内側が乱れていてもいいですよっていうことを決して言ってはいませんましてや生々みればそのような偽善的な会見というものがそのことに対して神様が決してそれをよしとされていないことそのことを私ははっきりと見て取ることができます思い返せば寝まもうこのように生まれていましたマタイの23-25 から 26 のところにまた 23-25 から 26 のところに災いだ議選の立法学者パリ祭人お前たちは杯8皿の外側清めるがその中はボーナス報酬でいっぱいです パリ祭人たちは杯の内側を清めなさいそうすれば外側も記憶なりますウサギとは心にあるものがことばや振る舞いとなって出てきます心にあるも

のこそがその人の本当の姿を表しているのですだからこそ私たちは外側を変えることを追い求めることよりもまず家は側が変えられることを祈り求めながら歩いていくことが必要になります執事は外側も内側もそのどちらにおいても周りの人々の尊敬は 住めるようなものでしたこのようなものであることそれが最初に求められていたことでした今日皆さんなぜ香和チンゲンであることを1番に求めたんでしょなんだと思いますどうして人々から尊敬を受けるような笑をその人物がしていることそのことをまずタオルを求めたんでしょそれは主人の職に就く者がどんな働きを要求されていたのかということを考えれば容易に想像できます どんな働きをしたそれは彼らは教会によって人々が抱えている必要であったり特に弱いものであったり貧しい人たちが抱えている物質的な面を世話するということが求められていましたじゃあもしそのような必要満たすような人物の生き方が乱れていて人々の信用を損なうようなそんな歩みをしているんだとおっしゃるが果たしてそんな人を私たちが信用することができるでしょうか例えば人前で良い行いをしていても誰も見ていない隠れたところでは 人から非難されるような人から非難されるようなそんな行動をとる人だとしたらそんな人に私たち協会の大切な働きというものをまかせようとするのでしょうかそうですししないですよなぜしないのかってそれは全て任せることが危険なことだとわかっているからです皆さん私たちは3歳の子どもに家を任せて外に出かけることなんてしませんですよ何故か それは家に帰ってきたときに家の中が大惨事になっていることが目に見えてくるからです同じように自分のこともままならないようなそんな未熟なものに他の人の世話を任せることなんてできませんだからこそ出人は人から尊敬され信頼されるようなそんな証をまず立てている人物であることその成熟したものであることが大切なことでした金言であるということをして人々の尊敬を集めるものであるということは欠かすことのできない重要な資格だったのです でもこれはなにもう1人だけに認められていたものではありませんでした覚えてます以前私たちが見た長老の資格の中でも長老は人々の間で評判の良い品いのあるものそのようなものであることが求められていました信仰者ひとりひとりに対して目人間であるということそのことを求めていました例えばパウロはピリピ中でこのように述べていましたフィリピン4章の8節のところピリピ4-8のところ最後に姉妹たちすべての真実なすべての誉れあること全ての正しいことをすべての強いこと全ての愛すべきこと全ての評判の良いことその他曲と言われること賞賛に値することがあるならばそのようなことに心を留めなさいってここで全ての誉れあることというふうに訳されていることばが人間であると同じものになるのですけれどもパウロは主にある全ての姉妹たちがその会見において誉れあることを評判の良い子と賞賛されることそういったものに心を留めて歩いていくことを求めていました私たちは皆子の方が強持ってるものであろうが持っていないものであろうが 問われていることは同じでした私たちは皆謹厳なものとして歩いていかなければいけないなとすれば皆さんどうでしょう私の周りの人たちは特に私たちのことをよく知ってるようなその人の目には私たちのアイテムがどんなふうに映っているでしょうか人々が私たちの歩みを見るときにこの人のように歩いていきたいってこの人には信頼していろんなことを任せることができるそんなふうに言われるような歩でしょうかそれともいつも疑問や疑いというものを食べたり避難 歩でしょうかまたどうでしょう私たちは口で語っている事とそのことないとかかけ離れたようなそんなものになっていないでしょうか人前と人も見えていないところではおんなじ人物でしょうかそれともそこには大きなギャップが大きな隔たりがあるでしょうか 事でした私たち自身ではなくて私たちの愛する手が止めた耐えられるように人々の前で賞賛される振る舞いであったり態度というものを持って歩いていくことですそしてこれが1つ目にパウロが挙げた執事の資格金言であることでした2つ目に執事の資格として挙げられていたもの2つ目は二枚舌を使わないことでした二枚舌を使わない使うって一体どういうことなんでしょう このことばは非常に興味深いものでもととのギリシャ語には数人ってというのは2つのことばを使う人のことを表しています言い換えればこの人物のは一般の人にはあることを言って別の人にはそれと違ったことをいうようなそんな人物だということですから京都できます一方の人にはある

ことを言い別の人にはそれぞれ違ったことをいうような人ですもっと具体的にいるのだとすれば二枚舌を使う人分作るのはある人の前ではその人の良いことを語ってそしてその人の影では悪口であったりその人を非難するようなものごとを語るような人物のことです本人を目の前にしているときとそれ以外のときでは保険がある2通 神様やみことばに対するその感謝を話して神様を知らない人と一緒にいるときは彼らと話すようなものですその話す内容というものがこの山本と何ら変わりがないからこそ周りの人はその人がクリスチャンかどうかということに全然気づかないのですまたもう一ついうのであれば今のとき間を使う人物ってというのは口に出していることとその人の心の内にあるものが全く異なるような人物だということです。口に出していることとその心の内にあるものが異なる人物だということですから言い換えれば本心を偽って語るようなそんな人物のことを言っていますの働きを変えてみれば当然のことだと言えません考えてみてください執事というのは人々の抱える様々な必要を満たすそんな働きをする人たちでしたもしある人がやってきて自分はこんなものが必要なんですってどうか助けてくださいとそう言ってお願いされたことに対してした事がわかりましたと言ったものの一切それをしなかったらまた執事が神様よりも人のことを恐れて自分の仕える人によく見られたいんだってよく思われたいんだということを正直に話すのではなくいつも偽りを話していいかなあ?どうなりますそうすればそのような人物を私たちが信頼することができなくなってしまうばかりかそのような人物というのは兄弟姉妹の間に疑念を生んだり分裂や争いといったものを引き起こすことにつながったりするのですだからこそ執事はそんなに間近を使うようなものではなくことばにおいても人から尊敬されるような人物であることそのことが求められていました んでもこれも等に飲み要求されていたことではありませんでしたみことばすべてのクリスチャンに対しても2回とき間を用いないものであることを求めていたのです訳はまさにそのことを教えていましたヤコブの3章の9節から10節のところを見れば日本の山の丘から10のところ見れば私たちは下を持って種であり父である方を褒めたたえ同じ下を持って神にかたどって作られた人を呪います3人呪いが同じ口から出てくるのです私の兄弟たちこのようなことがあってはだとすれば皆さん私たちは20,000下を使うものではなくいつも真実を語るものとして歩んでいるでしょうかどうでしょうかある人の前ではその人に嫌われたくないんだってよく思われたいんだって早いと思いから良心とはいったことを話してその人がいないところではその人の陰口はゴシップといったものそういったものを探そうとしたりしていませんか本人を目の前にしているときと本人がいないときでは話すことが全然違ふどっち そんなことばを別の人に話そうとしていないでしょうか家いつも神様を喜ばせるそのようなものでしょうかそれとも悲しませるようなものでしょうか果たして私たちのことばを聞く人の助けであったり励ましになることまた恵みを与えるようなものでしょうかそれとも私たちのことばというものはいつも人を傷つけたりいつもその間に争い引き起こしてしまうようなものでしょうか私たちが正直になれば悲しいことに私昔のことばということにおいて多くの失敗をしてしまうものですここに居る全ての人がことばというものに関していろんなところで愛をしまいませず口にしないで良いこと 口にしてしまったり相内ことばでもって人を傷つけてしまうこともあります本来であれば私たちは神様に対する感謝を捧げ続けるように私たちは不満不平を口にしてしまうことも多々あり 救い主イエスキリストを心に留めて歩むことですかキリストは私たちが積みから救出してくださいました私たちが大人で犯すその罪だけを考えたとしてもそのあまりの罪深さのゆえに上直私たちに永遠の裁きを与えて当然でしたまた飲み値するようなそんな罪深い愚かな者として歩んでいたのですしかしそんな私たちに代わってそんな愚かな私たちに代わって角を全くおかしいキリストが十字架にかかって死んでくださいましたこの形は私たちと違ってののしられてもののしり返す事はなく苦しめられて戻すことをせず偽りを一切口にするということもありませんでしたことばにおいて完全だったそのようなお方がすべて私たちのために自分ご自身の命を捧げて死んでくださったのですそしてこの方が私たちに代わって神の怒りを耐え忍んで あったからこそ今この大きな愛のゆえに贖われ新しく神様のために生き

る者としてすぐに帰られましたこの形を信じる者には救いがあるとそのように約束して下さったので  
すこの形はしんどいものはしんどい終わりではなくよみがえって春にお会いするんだということその約  
束を与えてくださいましたこのような素晴らしい救いを与えて下さった方そのことを私たちは覚える  
ことですどうぞこの方の助けを祈り求めながら角を脱ぎ捨て新しい人を身に付けて歩いていくこと  
そしてこれが2つ目にパウロがあげた等の資格二枚舌を使わないことでした3つ目に筋の資格として  
挙げられていたもの3つ目は大酒飲みでうまいことでした大酒のみでない事でした強化に仕える執事  
というのはお酒に関しても注意を払ってお酒の中毒になつてようなものであってはいけないとい  
うことでしたこれは以前見た監督の資格の中でも挙げられていましたけれども覚えてます皆さんも13節を見て  
いただくと感謝する元のご日本ありました酒飲みで お酒に溺れてそれに生活が支配されてるよ  
うな人物があつてはいけないんだということをそのことが言われてたのですどうしてかそれはお酒  
というものがその人の思考であつたり判断力というものを鈍らせるだけでなく何よりも本来土  
産なければいけない子の神様を心の内から忘れさせてしまうからでしたお酒の持つて  
る先生は私たちの力神様を忘れさせるという危険性があつたのです以前も見ましたけれども  
いざの5-11から12のところ機材の5-11から12のところ終わりましたああ朝早くから強い酒  
を追い求めよ悪化してぶどう酒は追っている者たち 俺には勝てポットと仲間のことを  
タンバリンと笛とぶどう酒がある彼の趣味は車を突も気もせず店のなされたことを味も  
しないお酒の虜になってしまえばお酒に支配されてしまえば神様を忘れる恐れそして命が  
から冷静な判断ができなくなるのですそのようなことができなければ神様の下へ上を正しく  
導いていくことができなくなりますだからこそ監督はお酒に関しても先に関しても自分を正しく  
接することができることが求められていましたそしてそれと 自分の心を慎み深く制する  
ことができるものそのものであることが欠かせない条件でしたでもこれも考えてみてくだ  
さい執事の働きを考えればよくわかります1とき間酒によるものだったとすればどうな  
と思いますそうすれば誰かが助けを求めるようなときにその人に誠実に仕えることが  
できなくなってしまいますまたお酒に心が支配されてしまえばその人は神様の喜ば  
れることであつたり他の人の必要に目を向けようとするよりもまず自分の欲求を満  
た ことをお酒を借りれることを求めるようになってしまつたりするので私たちは私  
たちの心にあるもの心の内を占めているものによってその歩全体が導かれていきま  
すだからこそタオルを述べていました私たちは酒に酔うのではなく先に支配される  
のではなく御霊にいつも満たされていることそれが大切なんだその執事という  
ものは大酒のみでは無いことを先に支配されることで車検に支配されるもので  
ないことこれが3つ目にタオルをあげていた執事の4つ目の資格として挙げられて  
いたのは今度は不正な日を貪らない事でもう一度ちょっと8節のとこ見ていただくと  
こんな風に届いてました金言で二枚舌を使わず大酒飲みでなく不正マリオ貪らず  
と貪らずと訳されていることばですけれどもこのことばには恥知らずな金銭欲8  
知らずな金銭欲とか洋風深さ不正な利益を好むといった意味があります好むとい  
った意味ですつまり不倫つまり不正な日を貪る人物ってどんな人物かってその人物  
の洗える不正であつたりイカサマなどをして金銭のお金を上入れようとするもの  
だということです恥ずべきような不誠実な手段を持って自分の利益というものを  
手にすることそのことを何よりも好むのですそして執事となるものはそのよ  
うな不正なりを貪るものでないことが認められていました 夏の皆さん思い出  
してみてくださいこの手紙を記した当ときパウロがても手に手紙を記したこの  
当ときの教会に入り込んでいたそう2世教師たちの特徴それこそがまさにこの  
不正な日を貪る者たちでした以前も何回か見ましたけれどももう一度同じ第一  
でもっての緑青のところに行つていただいて6章の御節のところ見ていただくと  
こんなことが記されてましたまた知性が腐つてしまつて真理を失つた人々すな  
わち経験を利得の手段と考えている人たちの間には絶え間のない紛争が生じる  
のです9書かれてましたよね強化に混乱をもたらしていた偽教科書店教師  
たちは経験を美德の手段と考えているんだ振り返れば彼らはキリストのために  
働くことよりも自分たちがお金を得るためにすべてのことを出していたとい  
うことです宗教と

いうものを売り物にして自分の利益を稼ごうとするそんな彼らの心にあったのは金銭を1番に愛するそんな欲深さでしただからこそ彼はその後続く10節のところで言っていたのです皆さん10節を見ていただくと終わりました金銭 することがあらゆる悪の子だからですある人たちは金を求めたために進行から迷い出て異常な靴を持って自分を差し通し金銭を愛することが洗えるワークの連絡ですから協会の霊的リーダーにとって金銭を愛さないものであるということは非常に大切なことでしたそれは執事執事にとっても同じことです考えてみてください執事というものはいろんな働きを仕えるものでした協会のさまざまな働きに関わるが故に そんなときにその人物がお金を愛するような自分の利益を何よりも望むようなものだったらどうなると思いますやる事はそれは非常に危険な状態だということです例えば自分が一生懸命何ととき間にもわたって方明後日誰に言われたわけじゃないけどでも自分を犠牲にして働きましたってだからちょっと位それに値するものを手にしたってそんなふうを考えていれば本当はこれは英雄3 しおりそう頼まれていたものだけれどもでもゆうさんは別にそんなそんなに必要としてないってそれよりも自分の方が強だってだから代わりにもらったって大丈夫だろ不正な利用貪ろうとするものそのものたちが抱えてる問題って何か送りますこの人物は自分の利益を得るあればありとあらゆる理由を持って自分の正しさを正当化するというのですこの人物が自分の利益を得るため ちょっとぐらい嘘をつくことになったとしても自分はそれに値するだけのことをしましたって誰かを少し騙すことになったとしてもでも自分は誰よりも頑張ったんだからだからそのことをするそのことを手にする権利がありまして他の人がやってるんですだから別に自分もちょっとやっただって問題ないですそうやってたとえそれが不誠実な手段であったとしてもそれを正当化することによって自分自身の利益を得ようとするのです皆さんお金だけではありません自分の利益を 頭に得ようとするそのことを彼は不正な日貪るものなんだと言っていましたなくなれば私たちは一体何を心に留めて仕えているでしょうか私たちが仕えるときに心は自分の利益を何よりも大するということそのことを思って伝えているでしょうかそれとも夜私たちの素晴らしい神様のために神様の栄光何よりも表すために仕えようとしているでしょうか最初からよつめにタオルをあげていた執事の資格不正な日貪らないことでした1つ目に 打ち上げられていたものそれは清い良心を持って信仰の奥義を保っている事でした9節のところにそのように記されていました9節見ていただくと良い良心を持って真子木木を保っている人ですとそのように示されてましたこれは一体どういう意味なんでしょうが清い良心を持ってとか信仰の奥義を保つというのは一体何を表してるんでしょうか大きく2つに分けて信仰の奥義を保っていると座りました真子の奥義ということばですけれどもこの これは新約聖書の中で何度も何度もわたって用いられているもので簡潔にいうとかつて旧約とき代には隠されていたが新約とき代になってキリストがこられたことで初めて人々に揭示された真理のことを表しています長かったら向かいますけれどもこれっていうのはかつて旧約とき代には隠されていたもので新約とき代に待ってキリストがこられたことで初めて人々に揭示された真理のことを表しています例えばどんなものがあるかってローマ書の16章の25を見てみるとローマの16-25のところがこのように記されています私の福音とイエスキリストの船橋によってすなわち夜夜夜にわたって長い間隠されていたが今の表されて永遠の神の命令に従い預言者たちの所によって信仰の住所に導くために国の人々に知らされた6日の啓示によってあなた方を固く起たせることができる(ここでは奥義ということばがこの奥義ということばが福音とイエス・キリストの船橋イエスキリストの教えに関して用いられていました 福音をイエス・キリストの船橋教えですまたこの3日の26から27のところにもこんな風にありました頃西2章26から27の所にはこれは多くの世代にわたって隠されていて今神の政府たちに表された奥義なのです神の生徒たちにこの奥義が1文字の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを知らせたいと思われたのですこの6人はあなた方の中におられるキリスト栄光の望のことですここでは奥義ということばが新校舎の家に住んでおられるキリストのことをそのことを表していました いろんな箇所ありますでもこういったことを踏まえればじゃあ何が夜カフェオープン日という

ものはキリストによって明らかにされた福音であったり真理の教えであったりそういったクリスチャンの信仰にとって欠かせないもののことをいうのです福音であったり真理の教えといてクリスチャンの信仰にとって欠かせないもののことを特にというのですそしてそんな信仰の奥木生執事は保ものでなければいけないんだと言われていましたもしかしたら皆さん中にそんなことを思ったことが かもしれませぬ教会の長老たちっていうのはみことばの知識にかけた人でなければいけませんでも執事はそこまで認められないんじゃないんですかって出子の働きって協会の必要を満たすこと仕えることだし 1 ことばを知ってることよりもいろんな能力に長けた人であることそのことが重要なことの方が重要なんじゃないんですかもしそんなふうに考えているのだとすればみことばが教えていた事はそうではありませんでした彼はここで執事に関しても福音であったりみことばの真理というものをしっかりと身に付けていることを求める いたのです登録等もみことばをしっかりと身に付けたものであることそのことが求められていましたじゃあ違いは何か違いは今日はレポートなどを人々に教えるという責任を負っているということです木曾路は長老と違ってみことばを人に教えるってその責任は怒ってはいませんがもおんなじようにみことばを読み学び学んだことを心に描くはいつもみことばの真理を固く握って歩いていくことそれが欠かせないことでしたそして生き物命がかかって 終わりではありませんでした彼は単に真子のアプリを保っている人が数字なんだとそう言わずに強い良心を持って信仰の鍵を保っている人といったのです良心を持ってこれって何のことでしょうこの良心と妹の私たちが考えるときに私たちはこれを火災報知器のようなものだと考えることができます火災報知器のようなものです考えてみてください皆さん自分の家でくつろいでるようなそんなときに火災報知器の存在を隠してたりします しませんよね普段私あまり気を止めないものであるからこそ自分のどこにそれがあかわからない人もいるかもしれませぬ何も問題が起こっていないときは私たちは火災報知器の存在なんて気にも留めていないのですでも料理をしていて火を止めるのを消し忘れて誤って忘れて煙が発生したらそうすればピーピー火事です火事ですと言ってけたたましい音が鳴り響き何かしらの問題が起こっているということを風それを教えてくれるのです私たちの良心もこれと同じです もしも私たちの家に何かしらの問題が発生すればそのことを警告してくれるのですもっと言えば私たちがみことばの真理を知っていながらそれに逆らって歩むのであればそのとき良心はそのことが間違っているとそう強く訴えますでももし私たちがその良心の警告を無視して繰り返し繰り返し間違ったことを犯し続けていけばどうなると思いますそうすれば私たちの良心はドンドンドンドンと汚れて本来であれば警報が鳴らなければならないそのようなときにならなくなってしまうわけで まさにそういうことがテトス 1-15 から 16 のところでこんな風に記されていましたえーと 4-1-15 から 16 のところに良い人々にはすべてのものが強いのですしかし汚れた風信仰の人々には何一つ良いものはありませんそれどころかその知性と良心まで受けられています彼らは神を知っていると口では言いますが行いでは否定していますいうと 2 回叔父上ちゃんてどんな良いわざに目的が来る子良心と妹の記憶保っていくということそのことがとても大切なことでしただからこそ心を持って信仰の鍵を保っているということそのことを執事に求めたのです要するに執事というのはみことばの真理を正しく知っているだけじゃなくてその真理を固く保ってそれに則って忠実に生きていこうとすることそのことが求められるということですその人がみことばに忠実に歩いていけばどうなるかってそうならば良心は清く保たれるそしてそれが警報を鳴らすことがないのです結局のところここで言われていたこと問われていたことそれはみことばの真理を理していることではなくそれを自分のものとして固く保ち 実践しているかどうかでした私たちの歩みは信仰と行いとかけ離れたものであってはいけないのですではどのようなものなのでしょうかこれが 1 つ目にパウロが挙げた新設の資格清い良心を持って信仰の国を保って最後最後になりますけども 6 つ目の訳の資格として挙げられていたものそれは非難される金がない事でした非難される人が床終りましたまず審査を受けさせなさい 執事の職につかしなさい笑残念ながら今私が読んだその訳と同じ訳を持っている方の日本語訳ではパウロがここで言わん



としていること9日の原文で言わんとする事実は正確には伝えきれていませんこの箇所をより忠実にアクセスすればここはこんなふうに寝ますこれらの者達もまず審査を受けさせなさいそして非難される点があれば執事の職につかせなさいって違いわかります 原文では記されていますじゃあ何何買っここでポイントはこちらの者たちもということつまりここで言われている審査を受けさせなさいというその対象は執事だけではなく長老にもどちらにも当てはまるものだという事教会の霊的リーダーとして仕えていくものであるるのであれば長老であろうが執事だろうがそのどちらもが働きに着く前には必ずこのここに挙げられていたこの資格に基づいて審査される必要があるということです言い換えれば私たちは 審査することなしに適当に教会のリーダーを選ぶことを消した消したしないということですリーダーの人数が書いてないから人手が欲しいとりあえずあの人怖いよ一とかあの方は昔から人々に周りの人の人気は凄くから中のリーダーに加えても大丈夫だろうとかそういった風にはならないということですある人を審査することなく請求にリーダーシップが増えるということは評価にとって非常に危険なことになりましたからこそその人物が基準を満たしているのかどうか教会のリーダーとして仕える準備ができている 私たちの実際のその1歩というものを見守って祈りを持ってみことばから判断を慎重に暮らしていくことが大切になるのですとてもどういう風にやるか考えていて例えば① 6つの教科で仕えていくのに当たってその人物が困難に直面したそのようなときにどのように振る舞おうとしているのかそのことを私に見るのです難しい状況の中に置かれたそのときに課せられた責任に関してどのように果たそうとしていくのかその人物がどのように振る舞落としていこうとするのかそのことを観察するのですまたその人物が他の兄弟姉妹達と働きをしていくその中であって例えば争いや問題が起こる 場合そのような際にはどのように命だから対応しようとしているのかそのことを見るのです誰かから非難を受けようと受けている受けたようなそんな場合はそれに感謝する日に対してどのようにどのような態度でそれに向き合おうとしているのかそのことを観察したいのですその人がみことばを知っているだけではなくてほんとにその命を歩んでいるのかということとその人物が実際にどのような笑をしているのかということとそのことをまず目の当たりにし目にしそれでもそのものの歩がみことばの基準を満たしているのであれば非難される所のないものであるのだ 1人の色であろうが長老の色として使っているのですここで出てきていた非難されるところがないというこの資格ですけれどもこれは以前長老の資格を見たときにもいちどれました覚えてます避難されるところがないっていうのはこの人物が罪の一切ない完璧な存在だということではなくその人物の家には誰からも指を刺されていつまでも非難されるようなそんな明日の罪がないということでした します執事も長老の間違いを犯さないようなそのようなものでは決してありませんでも過ちを犯したとしてもすぐに悔い改めてキリストに伴いますます変わっていこうとするそのようにして悔い改めた罪を脱ぎ捨てて新しい人きた歩続けていこうとするからこそその人の会見は非難されるところがない座って診察したときに非難されるところがないものであるのだとすればその人監督の色になったり水の色につけて非難される犬が それが香りの娘にあげた執事の近くでしたさて今日私たちは霊的の霊的な教会のリーダーである執事について特にその資格に関して3つのものを見てきましたどうなったでしょうまず1つ目に出皺態度や振る舞いが周りの人から尊敬や賞賛を集めるようなそんな謹厳なものであることが求められていました2つ目に木曾路は一步一步の人にもあることを言い別の人には私がそれと違ったことをいうようなそんな今るとき間を使わないものであることそのことが求められていました3つ目に執事はお先に心を支配されることが そんな大酒のみれないものそういったものであることが求められていました44つ目に執事は自分の利益を得るためであれば不正を働くようなそんな不正な日を求められていました1つ目に人々はみことばの真理というものを正しく知っているだけではなくその真理を固く保ってそれに則って生きる強い童心を持って真子の奥義を保っているものであることが求められていましたそして最後3つ目裏筋は審査された人々から責められるようなそんな 求められていましたこれらが今日から仕えていくその執事の姿でした。菅食べ



物は私仕える者として目された私たちひとりひとりが目指していくべきその信仰の目標となるものだからこそ皆さん私たちの責任というものは1人になろうとならないと私たちを仕えるものとした読んでいくでしょうこの資格を目指して霊的に成熟したものとして成長し続けていくことです喜んでどんな犠牲を喜びにありますそしてもし自分が自分自身を開けに暮らせることであったり自分を犠牲にすることが難しく感じるようなそのような場面に出くわすのであればそんなときの主の姿をいつも思えることです私たちは街の資格を見ましたその姿を覚えるときにイエス様の振る舞いやことばこそ周りの人々から賞賛を集めるようなそのようなものでしたイエス様の方流業ことそれは全ていつも親切でこの方こそ自分ではなく人々の訳となることを求めて歩まれたお方でしたこの方こそ誰からも非難されるようなところがないそのようなうかつでした一切罪がなかったのですそしてそしてそのような私たちのために十字架にかかってくださったのです犠牲を払ってその足跡に従って歩むようにと仕えるものとしてその模範を残してくださいましたそのような犠牲を払って仕える者として来てくださったことを私はその方によって救われました新しく作り替えられましただとすればこの方に倣って喜んで読んでいきたいとそう思わないでしょうか私たちは確かに弱くこの方が与えてくださいました主ともに歩んでくださるのであればむしろごはん覚えておいても残り4週目の目標目指してともに歩いていきましょう

I テモテ 3 : 8 - 13

「:8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利を

むさぼらず、:9 きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。:10 まず審査を受けさせなさい。そ

して、非難される点があれば、執事の職につかせなさい。:11 婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。:12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子ど

もと家庭をよく治める人でなければなりません。:13 というのは、執事の務めをりっぱに果たした人は、

良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について強い確信を持つことができるからです。」